

## く 手をとり合っ、支え合うみんなの夢と国見の夢 にみっ子まつりを開催



練習した国見音頭を披露するくにみっ子たち

国見町幼小中一貫教育事業「くにみっ子まつり」が11月11日、国見小学校体育館で開催され、くにみ幼稚園、国見小学校、県北中学校の児童生徒ら約680名による交流活動が行われました。

くにみっ子まつりでは、国見町婦人会他のみなさんの指導のもと練習した「国見音頭」を全員で披露。息の合った踊りに会場は一体感に包まれました。ステージ発表では、幼稚園、各学校ごとにダンスや合奏、合唱を披露して交流を深めました。

上級生が下級生の手をとってリードする姿に、くにみっ子の頼もしさを感じる一日となりました。

## 国 “絵にたくさん話しかけて” 見小学校で絵画指導



寄贈された絵に触れて楽しむ児童ら（中央は置鮎さん）

国見小学校に震災復興のために絵画を寄贈いただいたデザインイラストレーター・置鮎早智枝さんによる絵画指導が10月27日、国見小学校で行われ、5年生児童が参加しました。

置鮎さんは、「絵にたくさん話をしてください。絵は自分の心を描くものであり、見たものをそのまま描くものではありません」と児童らに語りかけ、熱心に指導いただきました。

また、置鮎さんが製作した絵画の贈呈式も行われ、校長室前に飾られた絵の前には早速児童らが集まり、見て触れて楽しんでいました。

## 国 “道の駅をもっとステキに”子どもたちからの提案 見町教育フォーラム2017を開催



“マニフェスト”を発表する児童と桜の聖母短大生

### コミュニティ・スクールって？

地域に開かれ、地域に信頼される学校づくりを進めていくための仕組み。町では、コミュニティ・スクールを基盤とした「国見学園」構想のもと、保幼小中一貫教育事業に取り組んでいます。

### 「国見学園」構想

国見学園とは、保育所、幼稚園、小学校、中学校を一つの集合体とみなした呼称。「国見の子は一つ」という信頼関係、共同体意識を育てていこうという願いが込められています。

国見町教育フォーラム2017が11月25日、観月台文化センターで開催されました。

第1部では、町内の保育所や幼稚園、小中学校におけるコミュニティ・スクール関連活動の取り組みについて発表がありました。地域との交流内容や回数は各校まちまちですが、子どもたちにとって大変意義のある活動が行われています。

第2部では、文部科学省コミュニティ・スクールマイスターの四柳千夏子氏が「地域に根差したコミュニティ・スクール」と題して講演。四柳氏は、「取り組むことが目的ではなく、なぜ取り組むのかを考えることが重要」などと話をされました。

第3部では、少年仲間づくり教室生と桜の聖母短期大学の学生が、「道の駅をもっとステキに」をテーマに、政党のマニフェストになぞらえて発表をしました。各グループとも、子どもならではの素直で斬新な提案であり、道の駅の担当者から「直ぐにできるものから取りかかる」との言葉もありました。道の駅を通して、自分たちの“まち”の再発見につながったようです。

## さらなる交流の深化に期待 栃木県茂木町と災害時相互応援協定を締結



協定書を取り交わし、握手する太田町長（右）と古口町長（左）

### 茂木町ってどんなまち？

茂木町は栃木県南東部に位置する人口約13,000人の町。自動車レース場「ツインリンクもてぎ」はモータースポーツの聖地として世界的に有名です。全国有数の来場者を誇る道の駅もてぎは、栃木県の道の駅第1号。名産の柚子やイチゴを使ったグルメを楽しめます。



交流連携を進めている栃木県茂木町と国見町は11月10日、災害時相互応援協定を締結しました。

協定はいずれかの町において大規模な災害が発生し、被災した町独自で十分な対策ができない場合に、迅速かつ円滑な応援を行うもの。同内容の協定は岐阜県池田町、北海道ニセコ町に続き3例目となります。

国見町役場で行われた締結式では、太田久雄国見町長と古口達也茂木町長が協定書を取り交わし、太田町長が「震災以後、6年8カ月で培ってきたノウハウを活かし、両町の町民の安全安心を推進していきます」とあいさつ。また、両町長は「協定を機に、文化や教育、物産観光などあらゆる分野での連携に取り組んでいきます」と、さらなる交流の発展を誓いました。

両町の交流は、道の駅国見あつかしの郷の開業にあたり、全国モデル道の駅6駅に選定される茂木町の道の駅もてぎを視察訪問したことがきっかけで始まりました。以来、相互に訪問を重ね、物産交流などを進めています。

## 国 安全で円滑な地域交通の実現を目指して 道拡幅事業推進を要望



吉田審議官（左）に要望内容を説明する太田町長（右）

太田久雄国見町長は11月20日、財務省と国土交通省を訪問し、国道4号伊達拡幅事業の推進などを要望しました。

伊達拡幅事業は、交通渋滞の緩和や高速道路の代替機能の確保を目的として、国道4号の4車線化を目指すもの。特に道の駅オープン以降、周辺道路の交通量が増加傾向にあり、安全かつ円滑な地域交通の実現のためにも早期の整備が望まれることから、道路整備予算の拡充と事業推進を要望し、財務省主計局中山光輝主計官、国土交通省吉田光市国土交通審議官に要望書を手渡しました。

## 地 地域見守り活動に関する協力協定を締結 地域の安心を見守ります



協定書を取り交わす太田町長（右）と安彦専務（左）

JAふくしま未来と国見町との地域見守り活動に関する協力協定の締結式が11月7日、国見町役場で行われました。

地域見守り活動は、高齢者や障がい者、子ども世帯などを訪問・接客した際に、安否の把握や異変の発見を速やかに関係機関に情報提供するもの。

締結式では、安彦慶一JAふくしま未来代表理事専務と太田久雄国見町長が協定書を取り交わし、安彦専務が「住みよいまちのために尽力します」とあいさつ。太田町長が「連携しながら安心安全のまちづくりを進めます」と謝意を述べました。